



## 逆風に抗して ドロテー・ゼレ回想録

ドロテー・ゼレ著／三鼓秋子訳

不屈の女性神学者！

4月24日発売

◆四六判・上製・336頁・本体2900円



同じ著者による本

D・ゼレ著  
三鼓秋子訳  
神を考える  
現代神学入門

D・ゼレ著  
山下秋子訳  
幻なき民は滅ぶ  
いまドイツ人であることの意味

神学に核心的な視点をもたらした続け、常に斯界を震撼させてきたドロテー・ゼレ（1929―2003）。戦時下の幼い日々から多感な少女時代、ゴーガルテンやアルトマンから影響を受けた神学修行時代、そして子どもを抱えながらの離婚と再婚、解放の神学やフェミニスト神学との出会い、「政治的な夜の祈り」、反戦・反核運動、反アパルトヘイト運動など実践活動への関与、ユニオン神学校での教員生活など、波乱に富んだ自らの人生行路を赤裸々に綴る。逆風に負けない不屈の知性、美的なものに開かれたしなやかな感性が随所にきらめく稀有な人格を、生き生きと伝える自伝の傑作。

果敢な実践と芸術への造詣によって著名な女性神学者が、現代世界の諸問題との折衝の中から信仰の可能性を追求した清新な神論。 四六判 3300円

罪責を自覚する〈民族〉の形成と〈貧〉の理想の再発見を今日ドイツで最も必要な幻（ヴィジョン）として、預言者の洞察を語る。 四六判 1455円

D・ゼレ著  
吉村秀子訳  
キリスト教

倫理の未来

「従順」という古い美德の再検討から見えるもの。 新書判 600円

# イエスを見つめながら

カンバーランド長老キリスト教会高座教会七〇年史

4月24日発売

◆A5判・270頁・本体2000円

カンバーランド長老キリスト教会高座教会編

「日本に足りなかったのはこれだ！」

小さな英文聖書が生んだ教会の迷いと成長の記録

占領軍の管理下におかれていた敗戦後、厚木基地のアメリカ人チャブレンから一冊の英文聖書が贈られた。聖書に触れて大いに感動した人々は、キリストの道を一心不乱に走りだした。……時に迷い、時に痛みを負いながらも、キリストを見上げて走り続けてきた、高座教会七〇年の軌跡をたどる。

推薦の言葉 東京基督教大学学長 山口陽一

一冊の聖書の贈り物から誕生した群れが1000人を超える教会となり、カンバーランド長老教会日本中会を形成して12の教会・伝道所を生み出した神の恩寵による奇跡の物語。戦後の文化の拠点から、地域に根差す信仰共同体として成長を続けた70年の足跡を丹念にたどり、人間的な混乱や過ちなども含めて考察し、将来を展望する歴史が、編集委員会の協議を重ねて編まれたことがまことに貴重です。

## ●最近オンデマンド化された書籍

### 荊冠の神学 被差別部落解放とキリスト教

栗林輝夫

◆A5判・545頁・本体7800円

差別を発生させる文化的・社会的メカニズムを精緻に分析し、その批判と克服のためのキリスト教的視座を確立した、日本における解放神学の記念碑的著作。

### 新約聖書神学I ブルトマン著作集3

R・ブルトマン／川端純四郎訳

◆A5判・232頁・本体5000円

20世紀聖書学の代表的業績の完訳。第1巻は「新約聖書神学の前提と動機」。イエスの告知と原始教団のケリュグマを歴史的に解明。

\*『新約聖書神学II』は既にオンデマンド化済み、IIIは既刊書在庫あり。

ジャン・カルヴァン著／森川甫訳

## 共観福音書註解 下巻

マイマルコルカの三福音書を対観しながら記された注解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。出版された二五五五年は、ジュネーブにおける騷擾と自身の持病の顕在化などカルヴァンにとって多難な時期だった。上巻の刊行から三六年ぶりの邦訳完結となる。 A5判・予価8500円

新教出版社編集部編

## 現代のバベルの塔 反オリビック・反万博

2020東京オリビック・バラリンピック、2025大阪万博は、民の生活を破壊する「現代のバベルの塔」だ！解放の神学、科学史、ジェンダー研究などから9名の気鋭の論者が参加し、その支配からの脱出を望み見る決定的論集。うち3名の鼎談も収録。 ◆四六判・予価1800円

ヴィクトール・フランクル著／広岡義之ほか訳

## 究極的意味の探求 識られざる神「仮題」

戦後まもなくウィーンで語られた講演「識られざる神」を主要な内容とする本書は、フランクルの宗教思想を詳しく展開した極めて興味深いものであり、強制収容所のごとき想像を絶する苦難を経てなお固くされる神信仰を、精神分析の視点から弁証した神義論の書でもある。

◆四六判・予価3000円

● 3月に出た本と雑誌

## 詩篇の思想と信仰 V

月本昭男 第101篇から第125篇まで

本邦最大級(全6巻)の詩篇注解、ついに完結！厳密な私訳、詳細な語釈、各詩篇の思想と信仰について、行き届いた解説を施す。 ◆四六判・本体3900円

## 誰にも言わないと言ったけれど

ジェイムズ・H・コーン／榎本空訳 黒人神学と私

黒人神学の先駆者が、キング、マルコムX、ポール・ドウィンらの先達と黒人民衆の苦難から学んだ自己の思想形成の歩みを綴る。 ◆四六判・本体3000円

## 正義と法 キリスト教法倫理の基本線

W・フーバー／宮田光雄監修／佐藤・木部・小嶋訳

法の神学的基礎を探り、「人権」を最重要価値と位置づけ、現代の法治国家のあるべき姿を論じた大著。 ◆A5判・本体9500円

## 福音と世界

◆税込647円

### 4月号 〈家族〉をほどこく

寄稿者：寺尾紗穂、渋谷望、神谷悠介、松崎実穂、金  
在源／斉藤綾子／金迅野、栗田隆子、好井裕明、  
土井健司、マニエル・ヤン、松本あずさ、長谷  
川修一、辻学、山口政隆、内田樹

●日本のサブカルチャー史に残る傑作SF漫画・映画『AKIRA』（原作・大友克洋）が、二〇二〇年を予言した作品として再び注目を集めています。一九八二年に漫画連載がスタートした同作の舞台は、ほかならぬ二〇二〇年。階級都市・

ネオ東京ではオリンピック開催にむけた再開が進み、街には「中止だ中止」という落書きが。さらには伝染病が蔓延し、「WHO、伝染病対策を非難」との新聞記事まで。かつて待ち望まれたSF的な未来は、輝かしい新技術などではなく、『AKIRA』ばりの暗い世界として実現してしまつたのです。二〇二〇年に予定され先日延期となつた東京オリンピックはいま、開催するか否かといった選択の域を超えて、まったくの不可能なプロジェクトになりつつあります。現在起きているパンデミックを食い止めるには、おそらく交通や都市機能を抜本的に停止するほかないでしょう。当然、メガイベントなど中止です。にもかかわらず開催が強行されるなら、それは統治の要たる交通や都市——古来、その整備は国家の主要事業でした——といったモノを、人命よりも重くみているということ。むしろ、そんな価値判断には付き合えません。『福音と世界』二〇一九年八月号では「現代のバベルの塔——反オリンピック

ク・反万博」という特集をおこないましたが、この夏、同特集は書籍としてあらたに生まれ変わります。モノといのち、どちらが大切なのか、いまこそはっきりいっておくために。（堀）

●三月二十七日に渡辺信夫先生が亡くなりました。九六歳でした。昨年のクリスマスに病院をお訪ねした時はベッドに横になられたまま、しかし先生にしては珍しく饒舌と言つてよいほどお話しされ意気軒昂たるものでした。カルヴァン『キリスト教綱要』の二度にわたる完訳は常人ではなしえない偉業ですが、牧師・神学者としての先生の大きなお仕事の一部に過ぎません。私が編集者として接することができたのは先生のごく一面だつたと思います。それでもほんとうに多くのことを教えていただきました。感謝の思いでいっぱいです。

●新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、小社は当面、働く者の安全を第一に留意しつつ時間短縮・在宅勤務を採り入れます。ご不便をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。雑誌と書籍の刊行は確実に維持し、小社に託された出版の使命を果たして参ります。（小林）

謹告 『福音と世界』は5月号より本体価格を600円に改定します。

# 福音と世界

2020年  
5

A5判・80頁・定価660円・送料70円  
年間予約購読料（送料共）8760円

特集・環境といのち——わたしたちの現在地

いま環境について考えるとは  
どういうことか

藤原辰史

人新世という物語——新たな地質年代、  
二つの地球、いくつもの世界

太田和彦

2でなく3

ハイブリッド・コミュニケーション論 奥野克巳

エコロジー経済学が目指すもの——和田喜彦

エコフェミニスト神学の現在地——ラウダー・  
シ」とカトリック女性たち——藤原佐和子

これからの地球に生きる——小倉沙央里

【注目の連載】

◆いまを生きるのみことば 2 ..... 金 迅 野

◆I Say a Little Prayer 開かれる世界 2 ..... 栗田隆子

◆新約釈義 第三メモテ書 2 ..... 辻 学

◆くまさんのシネマめぐり 5 ..... 好井裕明

◆教父学入門 9 ..... 土井健司

◆バビロンの路上で 14 ..... マニエル・ヤン

◆遺跡が語る聖書の世界 16 ..... 長谷川修一

◆福音書記者たちの饗宴 17 ..... 松本あずさ

◆私はロックがわからない 20 ..... 山口政隆

◆レヴィナスの時間論 61 ..... 内田 樹